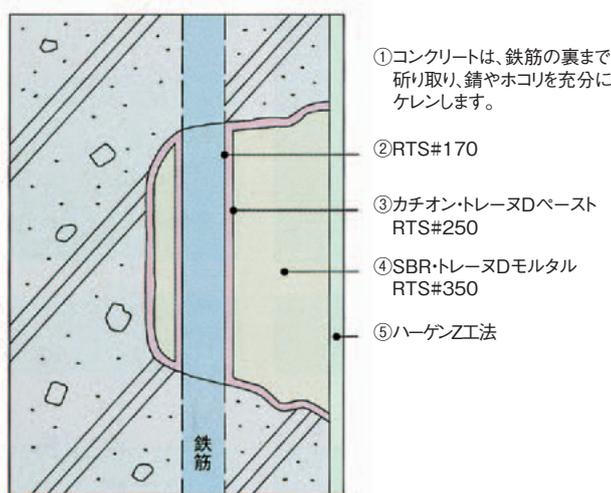


改修工事

コンクリート爆裂部鉄筋発錆部の処理

内部鉄筋発錆部の処理あるいは、発錆によってコンクリートが爆裂している部分の処理については、①弱くなったコンクリートや錆を十分に除去する。②適切な防錆処理および中性化防止処理③欠損部の埋めどし。④防水機能、保護機能に優れた仕上材の再塗布。以上が施工のポイントになります。「RTS工法」における鉄筋発錆部の処理工法は①②③のポイントを十分に満たすことのできる工法です。さらにアクリルゴム系壁面防水化粧材「ハーゲンZ」を仕上施工することによって、新たな中性化の防止、遮塩性、防水性などの諸性能を付与することができます。

弊社「RTS工法」のコンクリート爆裂部鉄筋発錆部処理方法はま



ず、鉄筋部および周辺コンクリート部分に、浸透強化性、防錆効果・アルカリ回復にすぐれたプライマー（RTS#170）を塗布します。

次に、防錆効果、中性化防止効果を持った既調合モルタルペースト（RTS#250）を塗布します。欠損部の修復には低収縮性、超速硬性のモルタル（RTS#350）を使用します。

鉄筋コンクリート構造物の劣化は、種々の原因が複合して発生する 경우가多く、改修方法の選択も難しくなっていますが、コンクリート中の鉄筋の腐食を止めることが、鉄筋コンクリート構造物の改修工事においては最大のポイントになります。



Vカット、Uカットをしないひび割れ部の処理

改修工事における仕上材に、伸び性能の良いハーゲンZを施工する場合は、錆汁・漏水の確認されない0.2mm幅以下のひび割れについては無処理で施工が可能です。また、挙動の大きいひび割れや躯体内部まで貫通しているひび割れについては、Uカットシーリングを行うのが適当です。それ以外のひび割れについては、従来カットしてシーリングをしていた様な幅の広いひび割れについてもカットもせず、上塗材よりも伸び性能に優れたクラック処理材「クラックパッチ」を施工

し、その上に直接「ハーゲンZ」を塗布する工法を採用しました。「クラックパッチ」による処理はシーリングによる処理に比較して短時間で簡単に行えるため、工期の短縮が可能になります。また処理跡も目立ちにくくなります。ひび割れの挙動に対しては「クラックパッチ」の変形がそのまま上塗材に伝わる事がなく、下記のゼロスパン試験にみられる様に、追従できるひび割れの幅がクラックパッチの施工によって大幅に向上します。

■ひび割れ追従性（ゼロスパン）試験

処理断面図	処理工程	ゼロスパン伸びと破断状況
<p>モルタル板</p>	①シーラー：シーラーW (0.1kg/m ²) ②増し塗り材：なし ③防水材：ハーゲンZF (1.7kg/m ²)	ハーゲンZFにピンホール発生 <p>6.9mm</p>
<p>モルタル板</p>	①シーラー：シーラーW (0.1kg/m ²) ②増し塗り材：クラックパッチ (1.0kg/m ²) ③防水材：ハーゲンZF (1.7kg/m ²)	ハーゲンZF端部破断 <p>14.9mm</p>

●改修工事における下地処理は、RTS工法によって行います。●RTS工法のパンフレットについては別途ご請求ください。